



「開国博Y150通信」(第6号)

<Y150イベントカレンダー>

エリア	6・7月
ベイサイド	★5/31~7/10 ・BATON第2章「アポロとミカル」 スタート ★6/2 ・象の鼻会場オープン ★6/13~26 ・黒船来航イベント
ヒルサイド	★7/2 ・ヒルサイド プレスプレビュー ★7/4 ・ヒルサイド開幕

■6・7月の主なイベント

<p><u>ベイサイド</u> 5月31日(日)～7月10日(金)</p> <p>6月 2日(火)</p> <p>6月13日(土)～6月26日(金)</p> <p><u>ヒルサイド</u> 7月 2日(木)</p> <p>7月 4日(土)</p>	<p>BATON第2章「アポロとミカル」 スタート</p> <p>象の鼻会場オープン(12:00～)</p> <p>黒船来航イベント</p> <p>プレスプレビュー 開幕</p>
--	--

※各イベントについては、内容決定し次第、別途ご案内状をお送りいたします。

※ヒルサイド「創発プロジェクト」メンバーへの取材は、随時受付中です。

- 報道関係者 問い合わせ先 -
 開国博Y150広報事務局 金垣・麦谷・平手
 TEL 03-3403-5139 FAX 03-3403-0436 E-mail:y150@ozma.co.jp

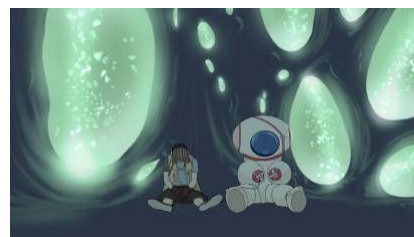


<ベイサイドエリア>

BATON第2章スタート

<概要>

未来シアターでは、5月31日(日)から7月10日(金)まで、岩井俊二氏が初プロデュースし、北村龍平氏が監督する新感覚SFファンタジーアニメーション「BATON」の第2章「アポロとミカル」がスタートいたします。
※「BATON」は1章約20分3部作の構成で、会期中を3シーズンに分け、順次上映予定です。



©2009 Rockwell Eyes
シーンの一部

<日程>

5月31日(日)～7月10日(金)

<場所>

Y150トゥモローパーク(新港地区7街区) 未来シアター

象の鼻会場 オープン

<概要>

“象の鼻”の呼び名で親しまれるベイサイドエリアの「象の鼻パーク」を会場に、黒船が立体的に浮かび上がるトリックアートや、日比野克彦アートプロデューサー監修による灯台アートワークイベントが開催されます。



©Kurt Wenner www.kurtwenner.com
黒船トリックアートイメージ

<日程>

6月2日(火)～9月27日(日)
* 灯台アートワークは8月5日(水)～9月27日(日)
※ 6月2日は12:00オープン

<場所>

象の鼻会場

黒船来航イベント

<概要>

横浜港に黒船が来航し、黒船体験ツアー、夜間ライトアップなど、様々なイベントを展開します。来航する船は、当時の黒船を彷彿とさせる外輪型帆船で、会期中5月・6月・8月の3回来航、昼間はイベントや乗船体験、夜間はライトアップで賑わいを創出します。

ベイサイド入場券をお持ちの方は、整理券を受け取ると無料で黒船乗船に参加できます。

■黒船体験ツアー

<日程> 第1期 5月3日(日)～5月10日(日) ※実施済
第2期 6月13日(土)～6月26日(金)
第3期 8月3日(月)～8月9日(日)

<場所>

横浜港新港ふ頭(海上保安部前)から乗船

<乗船コース>

新港ふ頭～山下公園沖～ぶかり棧橋沖～新港ふ頭

<乗船体験>

展帆作業(ロープの上げ下ろし)、ロープワーク(ロープ結び方)教室、バウスプリット(船の先端)渡り

<整理券>

未使用券もしくは黒船ツアー実施日の日付のある**ベイサイド入場券**をお持ちの方、おひとり様1枚限り、Y150トゥモローパークインフォメーションにおいて、当日有効の黒船(観光丸)乗船整理券をAM10:00からお渡しいたします。



©HTB-T2019



©HTB-T2020

黒船来航イベントイメージ

■夜間ライトアップ

<日程> 黒船来航イベント期間中 19:30～20:30
<場所> 山下公園沖

■黒船フェアウェルイベント

<日程> 8月9日(日) 19:30～20:15
<場所> 山下公園
<内容> マーチングバンドとライティングされた黒船とのコラボレーション

開国博Y150 人物クローズアップ(第4回)

ベイスайд Y150はじまりの森「ラ・マシン」パイロット紹介

“生命のある機械”をコンセプトに活動するフランスの巨大スペクタクルアート劇団「ラ・マシン」が日本初上陸。会期中の153日間は日本人がパイロットを務め、高さ約12m、重さ37tの巨大なクモは『Y150はじまりの森』を舞台に、まるで生きているかのように、毎回異なったパフォーマンスを披露します。今回は、その「ラ・マシン」パイロットたちをご紹介します。

巨大スペクタクルアート劇団「ラ・マシン」日本人パイロット



クモの魔法使い
MARI マリ
清水 万里
(しみず まり)
1980年 東京都出身



いつも楽しいクモの道化師
TORAJI トラジ
岡本 寅次
(おかもと とらじ)
1977年 三重県出身



繊細な脚の操り師
KINTA キンタ
岩倉 金太郎
(いわくら きんたろう)
1983年 京都府出身



華麗なる脚の仕立て屋
TEN テン
高杉 天文
(たかすぎ てんもん)
1977年 兵庫県出身



仕掛けに長けた技術屋
YAMA ヤマ
山中 良弘
(やまなか よしひろ)
1978年 福岡県出身



的確な任務遂行者
CHAKA チャカ
晴本 宏亮
(はるもと ひろあき)
1980年 奈良県出身



誰をも魅了する脚技師
AZTY アスティ
速水 AZTEC
(はやみ あすてか)
1979年 大阪府出身



クモの意思を伝える先導者
AIKO アイコウ
愛甲 常幸
(あいこう つねゆき)
1970年 神奈川県出身



気分屋の特効師
AKIE アキエ
嶋田 明枝
(しまだ あきえ)
1987年 東京都出身



クモを導く総指揮官
ROSHI ロシ
呂 師
(ろし)
長野県出身

一番の見どころは、各回のパフォーマンスを毎日変えている点です。その日のお客さんの表情や反応を見て、歩く方向や演技をアレンジし、日々進化させています。パイロット全員がクモの一部となり、お客さんと一体感を持ってパフォーマンスを繰り広げられた時が、最大の喜びですね。

パイロットの多くは役者出身なので、みんなの個性を伸ばしながら、それぞれのメンバーの「クモへの想い」を形にするのが、私の役目です。



4/19 開国博Y150プレイベントの様子

開国博Y150 チケットニュース

ベイサイド入場券をフル活用！

ベイサイド入場券は、横浜の魅力を十分に満喫できます。



①有料会場3会場すべてが、楽しめる！

(Y150はじまりの森、Y150トゥモローパーク、Y150 ドリームフロント & スーパーハイビジョンシアター)

②夜間(18:00~22:00)は入場料、約50%OFF

18時から有効な夜間割引入場券がお得です！！

開国博Y150の入場券には、18時から入場できる夜間割引入場券があります。料金は、大人の場合だと、普通入場券の半額1,200円で入場できます。

昼の表情とはまた一味違う夜の開国博Y150をお楽しみください。

③周辺施設の割引サービスが受けられる

入場券(実券)提示で、横浜ランドマークタワー69F展望フロアスカイガーデン(入場料50%OFF)や、観光船のマリンシャトル(乗船料50%OFF)など、横浜の主要スポットにおいて、会期中ずっと割引サービスが受けられます！
詳細は、開国博Y150ホームページ(<http://yokohama150.org>)を参照ください。

■お好きな1日が選べて、料金設定も大変おトク！

ベイサイド開催期間:4月28日(火)~9月27日(日)

ヒルサイド開催期間:7月4日(土)~9月27日(日)

入場券の種類	区分	当日券
ベイサイド 普通入場券 ベイサイド有料会場 1日入退場が自由です	大人	2,400円
	中人(高校生)	1,200円
	小人(小・中学生)	800円
	シニア(65歳以上)	1,900円
ベイサイド 夜間割引入場券 ベイサイド有料会場に 18時以降入場できます	大人	1,200円
	中人(高校生)	600円
	小人(小・中学生)	400円
	シニア(65歳以上)	1,000円
ベイサイド 全期間入場券 写真貼り付け本人に限り、 開催期間中有効で入退場自 由	大人	10,000円
	中人(高校生)	5,000円
	小人(小・中学生)	3,300円
	シニア(65歳以上)	8,000円
ベイサイド 特別割引入場券 身体障害者手帳、療育 手帳等を所持する方 及びその介護者2名	大人	1,200円
	中人(高校生)	600円
	小人(小・中学生)	400円
	シニア(65歳以上)	1,000円
ベイサイド 回数割引入場券 5/2(土)~5/6(水)、8/8(土) ~8/16(日)、9/19(土)~ 9/27(日)は適用外です	大人	13,500円
	中人(高校生)	6,900円
	小人(小・中学生)	4,500円
	シニア(65歳以上)	10,500円

入場券の種類	区分	当日券
ヒルサイド 普通入場券 ヒルサイド有料会場 1回入場できます	大人	600円
	中人(高校生)	300円
	小人(小・中学生)	200円
	シニア(65歳以上)	500円
ヒルサイド 全期間入場券 写真貼り付け本人に限り、 開催期間中有効で入退場自 由	大人	2,500円
	中人(高校生)	1,250円
	小人(小・中学生)	800円
	シニア(65歳以上)	2,000円
ヒルサイド 特別割引入場券 身体障害者手帳、療育 手帳等を所持する方 及びその介護者2名	大人	300円
	中人(高校生)	150円
	小人(小・中学生)	100円
	シニア(65歳以上)	250円
ヒルサイド 回数割引入場券 8/8(土)~8/16(日)、9/19 (土)~9/27(日)は適用外で す	大人	3,300円
	中人(高校生)	1,600円
	小人(小・中学生)	1,000円
	シニア(65歳以上)	2,700円
ズー割引入場券 ズーラシア入場者が ヒルサイドエリアに 入場の際の割引入場券	大人	500円
	中人(高校生)	250円
	小人(小・中学生)	150円
	シニア(65歳以上)	400円

※ベイサイド、ヒルサイド回数割引入場券、ズー割引入場券は当日出札所のみにて発売。

※入場券は、旅行会社、コンビニエンスストア等でお求めください。

※ヒルサイド普通入場券には、よこはま動物園(ズーラシア)入場割引券(20%OFF)が添付されています。

開国博Y150 チケットニュース

横浜ベイスターズのホームゲームが
「開国博Y150」入場券で優待サービスを受けられます！

横浜開港記念日(6/2)を祝し、開国博Y150のチケットを提示すると横浜ベイスターズの当日内野指定席がすべて500円引きとなる優待サービスを実施いたします。
ベイスайд入場券(実券)、ヒルサイド入場券(実券)どちらでも受けられます。

【実施期間】 2009年6月5日(金) 対 埼玉西武戦 ～ 9月23日(水・祝) 阪神戦

【料金】	<内野指定席(SS)>	6,000円(通常価格:6,500円)
	<内野指定席(S)>	5,000円(通常価格:5,500円)
	<内野指定席(FA)>	4,000円(通常価格:4,500円)
	<内野指定席(FB)>	3,500円(通常価格:4,000円)
	<内野指定席(A)>	3,500円(通常価格:4,000円)
	<内野指定席(B)>	3,000円(通常価格:3,500円)

【販売対象】 開国博Y150 ベイスайд入場券購入者、ヒルサイド入場券購入者

【販売場所】 横浜スタジアム当日入場券売場

【販売方法】 開国博Y150の有料入場券(ベイスайд入場券またはヒルサイド入場券)を上記入場券売場にてご提示いただくと、上記割引価格でご購入いただけます。

- ◆開国博Y150期間中のうち(9/23まで)は本人含め4枚迄何度でも割引価格で購入できます。
- ◆そのほかの券種(内野自由席・外野席)は適用除外となります。
- ◆前売り券は適用除外となります。
- ◆他の割引との併用はできません。

【お問合せ先】横浜スタジアム
TEL 045-661-1251(10:00~16:00)

Y150コールセンター
TEL 045-414-0103(9:00~22:00)

【その他】 ※全期間入場券についても優待サービスを受けられます。
※回数割引入場券についても優待サービスを受けられます。
※無料券、招待券では、優待サービスは受けられません。
※開国博Y150入場券をお持ちでない方には割引販売いたしませんのでご注意ください。

以上

<ベイサイドエリア>

トゥモローパークステージ イベントスケジュール(6月)

<場所> Y150トゥモローパーク ステージ

注目ステージ! 6月2日(火)

FMヨコハマ「Tips Town」 横浜開港150周年記念SPECIAL

14:00~17:00 STUDIO SEAGULL Y150 トゥモローパークステージより公開生放送

ゲスト: ゆず、ヨースケ@home

日	曜日	ステージ	
1	月	優月	YAMATO
2	火	有希美咲 ミニライブ	FMヨコハマ「Tips Town」 横浜開港150周年SPECIAL jewl"U ミニライブ
3	水	TSUBO-KEN	JaJa
4	木	Minami 坊ちゃん ミニライブ	
5	金	[音楽のまち・かわさき]PRESENTS音楽のまちコンサートin Y150	
6	土	吹奏楽:かもめ吹奏楽団	吹奏楽:フェリス女学院大学
7	日	[音楽のまち・かわさき]PRESENTS音楽のまちコンサートin Y150	
8	月	KI-LA-LA	國喜屋
9	火	mikawa	ロズかま
10	水	インクストウエンターティストライブ	
11	木	工藤江里奈	
12	金	CHILDFOOD	
13	土	Georgia Student Choir	
14	日	吹奏楽A	吹奏楽B 白井貴子ライブ
15	月	mikawa	踊り天国 横濱音頭
16	火	PRISE YOU	
17	水	SUPALOVEレーベルライブ	
18	木	インクストウエンターティストライブ	
19	金	[音楽のまち・かわさき]PRESENTS音楽のまちコンサートin Y150	
20	土	吹奏楽A	吹奏楽B
21	日	JAZZ DANCE REIKA Live	
22	月	On The Steet Label ライブ	
23	火	YUKA FUNAKOSHI コンサート	タルトタタン コンサート
24	水	横須賀★DECICA	有希美咲
25	木	愛川真琴	On The Steet Label ライブ
26	金	インクストウエンターティストライブ	
27	土	吹奏楽A	吹奏楽B
28	日	[音楽のまち・かわさき]PRESENTS音楽のまちコンサートin Y150	
29	月	RUUライブ	RoughCloverライブ
31	火	はやぶさ	On The Steet Label ライブ

※たねまるショーは毎日開催しております。

※スケジュールは変更になる可能性がございます。

※最新のイベントスケジュール(含:出演時間等)は、ホームページに
随時掲載しております。



ステージイメージ

※個別にご取材を希望の方は開国博Y150広報事務局(03-3403-5139)までお問合せください。

開国博Y150 イベントスケジュール

バイサイド市民協催スケジュール(6月)

<場所> 大さん橋会場・赤レンガ会場

【赤レンガ倉庫1号館2Fスペース】

6月1日(月)～6月2日(火)	「新島襄と横浜開港」 「マイワールド(ガラクタで一杯な私の部屋)」 「横浜の夜景を描く」 「アート大好き人間大集合！」 「ウクレレ ソロ パフォーマンス」 「Y150/未来へ届け！HAPPY港ライブ♪」	同志社校友会神奈川県支部 高沢雅子 郷右近健二 プロジェクト「夢」 小山文子 ☆Y150/Happy Music☆
-----------------	--	--

【赤レンガ倉庫1号館3Fホール】

6月1日(月)	「鯨がペリーを連れてきた！開国の地『横浜』」	日本捕鯨協会
6月2日(火)	「横浜の歌を歌う横浜歌謡祭」	峰章山歌謡教室と歌の仲間
6月3日(水)	「潮風にのせて」 「箏とフルートによるコンサート」	楽々二胡 うたわ会
6月16日(火)	「劇団アドック公演 芥川龍之介作『雛』」	劇団アドック
6月22日(月)	「開国博Y150記念俳句大会」	俳句

【大さん橋ホール】

6月2日(火)～6月5日(金)	「横浜国際教育学院 学生写真展」 「史料に見る戦前の町別地図」 「絵葉書でめぐる明治の横浜展」 「横濱地図博覧会2009」 「MIZU in Harbor」	横浜国際教育学院 中区歴史保存会 横浜絵葉書会 横濱地図博覧会2009 Galerie Paris
6月6日(土)	「車いすアルティメットエキシビジョンマッチ」	車いすアルティメットチーム ディスククレイジー
6月7日(日)	「AC045 Music Cafe」 「スポーツチャンバラでヒーローになろう!!」	AC045 社団法人日本スポーツチャンバラ協会 小学生普及委員会
6月8日(月)	「広げよう！おっきなWA！」	琉球國祭り太鼓 神奈川支部
6月19日(金)～6月22日(月)	「日本の音色・和の響き『尺八の魅力』」	秋葉尺八倶楽部
6月20日(土)	「ブラックボール」 「黒船来航フェス」	ブラックボール 横浜案内人
6月21日(日)	「黒船来航 to ロッキンヨコハマ150」 「未来の自分に夢の種まき、新たなる出航！」 「横浜フィットネスフェスタ2009」	Rockinn' YOKOHAMA 150 NPO法人 MYフィットネス研究会 フィットネス・キーマンズ・ネットワーク

※スケジュールは変更になる場合がございます。

<ヒルサイドエリア>

ヒルサイドエリア プレスプレビュー

<概要>

7月4日(土)に開幕する「ヒルサイドエリア」へメディアの皆様をいち早くご案内いたします。

<日程>

7月2日(木)

10:00~17:00(受付 9:30) ※11:30より一般公募市民内覧会を併催

<場所>

Y150つながりの森(よこはま動物園ズーラシア隣接地区)

ヒルサイドエリア 開幕

<概要>

「ヒルサイドエリア」は、横浜市の北西部、緑区と旭区にまたがる横浜動物の森公園の中にあり、よこはま動物園ズーラシアに隣接しています。横浜の里山に囲まれた緑あふれる環境の中では、公募で集まった市民スタッフが中心になって創っていく「Y150つながりの森」が展開します。

<日程>

7月4日(土)~9月27日(日)

9:30~17:30

※但し、8月の毎週土日及び9月19日から27日の9日間は、9:30~20:30

<場所>

Y150つながりの森(よこはま動物園ズーラシア隣接地区)



ヒルサイドエリア「竹の海原」

開幕前に市民創発プロジェクトのリハーサルを実施！

ヒルサイドエリア開幕前に、市民創発プロジェクトのリハーサルを実施いたします。いままで試行錯誤してきた各プロジェクトを実際に行い、開幕に向けて最終準備をはじめます。

【日程】 6月13日(土)、14日(日)、20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日) 9:00~

【場所】 Y150つながりの森(よこはま動物園ズーラシア隣接地区)

※ご取材をご希望の方は、開国博Y150広報事務局(03-3403-5139)までお問い合わせください。

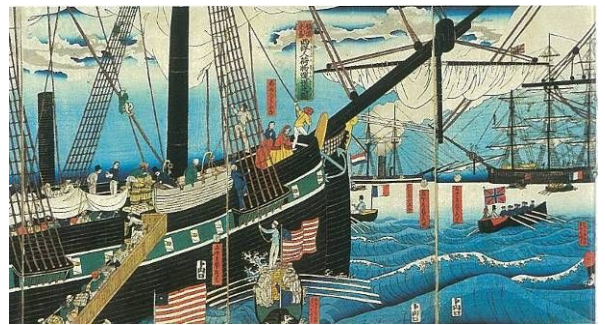
※ヒルサイドエリアのイベントについては、内容決定し次第、別途ご案内状をお送りいたします。

開国博Y150 横浜歴史コラム(第6回)「地名の謎～横浜なのに“フランス山”?～」

中区の山手、堀川を挟んで横浜人形の家の向かい側に広がる斜面一帯は現在フランス山地区と呼ばれ、公園になっています。

今から約130年前、幕末から明治の初めにかけて、山手にはイギリスとフランスの軍隊が駐屯していました。イギリスは現在の港の見える丘公園と岩崎博物館がある一帯に、フランスはフランス山地区に兵舎を構えました。

外国の軍隊が駐屯するきっかけとなったのは1862年(文久2年)に起きた生麦事件でした。生麦村(鶴見区)を通過していた薩摩藩(現在の鹿児島県)の島津久光一行が、通りかかった外国人らが無礼をはたらいたとして、切りつけ、1名を殺害し、2名を負傷させたものです。当時の日本人の中には外国人が日本に住むことを快く思わない人々も多く、このような外国人殺傷事件が相次ぎ、また居留地襲撃の噂も絶えませんでした。そこで居留民の生命と財産を守るために自国の軍隊が呼び寄せられたのです。



イギリス軍の行進
(横浜開港資料館蔵)

軍隊は12年間の駐屯の後、撤退しますが、フランス軍の拠点一帯はその後、フランス領事館が長くおかれたこともあり、フランス山という名前がつけられたと考えられます。ちなみにイギリスが駐屯した一帯は「トワンテ山」と呼ばれました。イギリス駐屯部隊のひとつ、陸軍第20連隊の英語音(トゥエンティー)からつけられたものです。

<監修> 斎藤多喜夫(元横浜開港資料館調査研究員)
<出典> 横浜開港資料館『横浜の歴史あれこれQ&A』(P11)

開国博Y150 横浜歴史コラム(第7回)「横浜市の市章と市歌」

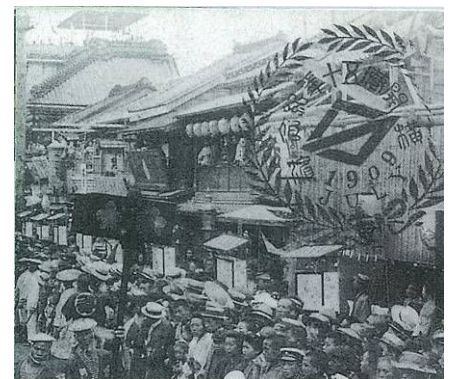
「わが日の本は島国よ」で始まる横浜市歌は、学校の入学式や卒業式でおなじみですが、これは1909年(明治42年)、横浜開港50周年の記念として作られました。

1859年(安政6年)に開港する前は百戸ばかりの寒村だった横浜が、半世紀を経て国際的な港町に発展した様子がうたわれています。作詞は当時すでに文豪として有名だった森鷗外、作曲はドイツ帰りの新進作曲家の南能衛でした。

歌いつがれて約90年、これほど長いこと謳われている市歌は全国でも珍しいそうです。

一方、横浜市のシンボル・マークである市章(公式には徽章という)も、開港50周年記念の一環としてデザインの公募が行われ、当時市役所の文書課長だった有賀初吉の作品が当選しました。これが現在でも使われているおなじみのハママークです。3日間にわたる盛大な50年祭には、このマークの入った提灯が町を飾りました。

ところで、このハママークは、形だけでなく、色も規制で定められているのは意外と知られていません。公式な色は白地に「赤」ですが、黒一色の印刷物が多いこともあり、現実には赤は少ないようです。



横浜開港50年祭のパレード(明治42年)
(横浜開港資料館蔵)

<監修> 西川武臣(横浜開港資料館・主任調査研究員)
<出典> 横浜開港資料館『横浜の歴史のあれこれQ&A』(P23)

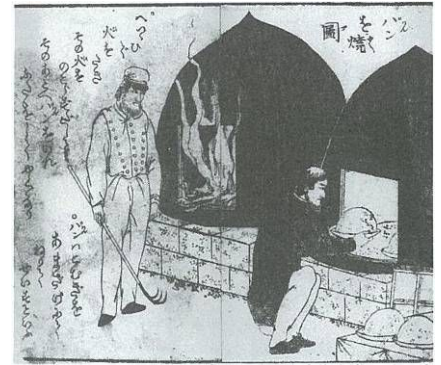
開国博Y150 横浜はじめて物語(第6回) パン発祥

興味深いことに、パンの製造を始めたのは日本人でした。イギリス商人のロジャースの回顧談によると、運上所(※1)の背後、「お貸長屋」(※2)の周辺には、居酒屋(sake shops)、そば屋(macaroni shops)、一膳めし屋(cheap eating houses)が密集していました。その主人の一人が、フランス軍艦ドルドーニュ号乗り組みのコックから手ほどきを受け、日本の小麦粉で「ゆでだんご」のようなパンを焼き始めたことが、パンの発祥と考えられています。

他方、内海兵吉の談話によると、彼は開港の翌年、本牧から出てきて「お貸長屋」に住んでいました。父親が江戸で菓子屋をしていたので、似通った商売をしようと思ってパン屋を始めました。焼餅(やきいも)釜のようなものでいい加減に焼いたので、パンだか焼饅頭だか、何だかわけのわからない物ができたが、外国人の食べる物がなくて、それでも良く売れたといえます。時期や場所が一致するので、ロジャースのいう「日本人のパン屋」は兵吉のことに違いないと考えられています。

外国人のベーカリーが登場したのは兵吉より遅れること1年後の1861年(文久元年)、アメリカ人グッドマンとポルトガル人フランク・ホセが相次いで開業しました。洋風パン屋(European Bakery)が登場する前に、和風パン屋(Japanese Bakery)が存在したわけです。

兵吉は富田屋の屋号で経営を続け、横浜を代表するパン屋に成長しましたが、昭和40年(1965年)に廃業、惜しくも4代、105年の歴史に終止符をうちました。



パンを焼く図

- ※1: 開港場で、外交、輸出入品の監督、関税の徴収などを担当した役所。おおむね現在の税関にあたるが、もっと広範な業務をもっていた。
- ※2: 幕府が横浜に移住してくる内外人のために、運上所の近くに建てた長屋で、町役人が管理していた。

<監修> 斎藤多喜夫(元横浜開港資料館調査研究員)
<出典> 横浜開港資料館『横浜もののはじめ考』(P50, 51)

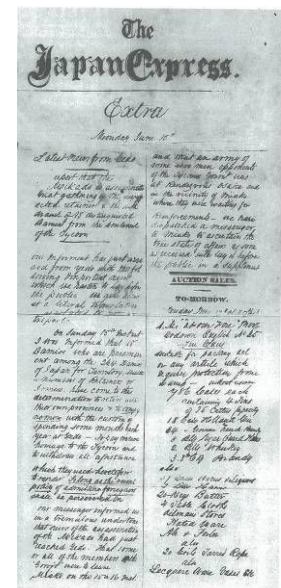
開国博Y150 横浜はじめて物語(第7回) メディアの誕生 ～横浜の新聞と雑誌～

横浜では、開港後貿易関係や政治事件、世界情報などのニュースを紹介するため、様々な「新聞」が発行されました。

例えば、居留民のショイヤーは、『ジャパン・エクスプレス』を発行。英語を木版に彫刻し、和紙に印刷して配布しました。その号外が横浜開港資料館に保管されています。本格的な英語の新聞としては、『ジャパン・ヘラルド』が1861年(文久元年)11月23日に発行。土曜夕方の1回刊行で一般公衆を対象に、公使や領事の公告と商社の広告、海外や日本・横浜のニュースなどによって紙面構成されていました。

また、1864年(元治元年)、ジョセフ・ヒコが手書きの邦字新聞『新聞誌』を創刊。翌年『海外新聞』と改題し、岸田吟香と本間清雄の協力を得て、木版和綴本のかたちで定期刊行を開始しました。郵便船がもたらす海外新聞の翻訳により、海外事情を明らかにすることを目的とし、商品相場や広告も加えられています。

さらに、風刺雑誌も横浜発祥です。1861年(文久元年)7月に、イギリス人ワグマンは、『絵入りロンドン・ニュース』の特派画家兼通信員として来浜。『ジャパン・パンチ』編集者の肩書きで活動しました。『ジャパン・パンチ』の主題は多岐にわたりましたが、外交問題や居留地内の出来事を取材したものが多かったそうです。実際の事件に取材し、特徴を捉えた居留民の似顔絵が豊富に含まれているので、歴史資料としても重宝されています。



発見された『ジャパン・エクスプレス』号外

<監修> 斎藤多喜夫(元横浜開港資料館調査研究員)
<出典> 横浜開港資料館『横浜もののはじめ考』(P64～73)